

## 2027年度 麗澤大学大学院 言語教育研究科《修士課程》入試大綱

### 1. 入学定員

言語教育研究科《修士課程》 日本語教育学専攻 約6名

### 2. 選抜区分および募集人員

選 抜 区 分		日本語教育学専攻
I 期入試	学内特別推薦 A (日本語教育プロフェッショナルコース) ※1	約 6 名
	一般 (学内・学外) ※2、※4	
	社会人 ※3、※4	
II 期入試	学内特別推薦 B (2年修了コース／面接型) ※5	
	学内特別推薦 C (2年修了コース／筆記・面接型) ※6	
	卒業生特別推薦 ※7	
	学外特別推薦 ※8	
	一般 (学内・学外) ※2、※4	
	社会人 ※3、※4	

※1 「学内特別推薦 A (日本語教育プロフェッショナルコース) 入試」は、以下の1～6のすべてを満たすことが出願条件。日本語を第1言語としない者の場合、これに加えて7も満たすこと。

1. 麗澤大学外国語学部及び国際学部国際学科4年次生で、本専攻を第一志望とし、I期に出願できる者。
2. 出願時の成績について、全履修科目の7割以上でA評定以上、またはGPA(累積)が2.5以上の者。
3. 学部4年次に日本語教育プロフェッショナルコースにエントリーが認められ、指定されたゼミナールにおいて研究指導を受けている者。
4. 日本語教員養成課程・主コース(日本学・国際コミュニケーション専攻以外の学生の場合は日本語教員養成課程副コースでも可)修了(見込み)の者。または、日本語教育能力検定試験に合格している者。
5. 修了後の進路に明確なプランのある者。
6. 所属学部長が推薦する者。
7. 日本語能力試験N1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上の者。

なお、「日本語教育プロフェッショナルコース」の受験者の場合、「日本語教育プロフェッショナルコース」と「2年修了コース」との両方で合否判定を行う。日本語教育プロフェッショナルコースで不合格の場合でも、通常2年修了コースで合格判定が出る場合もある。(「2年修了コース」での受験者は、通常の2年コースのみで合否判定を行う)

※2 「一般(学内・学外)入試」は、以下の1を満たすことが出願条件。日本語を第1言語としない者の場合は1に加えて2の条件も満たすこと。

1. 国内外の教育機関において、言語学・日本語学・日本語教育学に関係する科目を合計2科目以上履修している者。
2. 日本語能力試験N1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上の者。

- ※3 「社会人入試」は、大学を卒業し、国内外の教育機関において実質6ヶ月以上の日本語教育歴を有することが出願条件。かつ、日本語を第1言語としない者の場合、日本語能力試験N1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上であること。ただし、非漢字圏出身者の場合、面接等でN1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上相当の日本語力があると認められれば、出願可とすることがある。
- ※4 海外在住者については、I期のみ出願が可能。
- ※5 「学内特別推薦B(2年修了コース/面接型)入試」は、以下の1～5のすべてを満たすことが出願条件。日本語を第1言語としない者の場合、これに加えて6も満たすこと。
1. 麗澤大学外国語学部及び国際学部国際学科の4年次生で、本専攻を第一志望とし、II期に出願できる者。
  2. 出願時の成績について、全履修科目の7割以上でA評定以上、またはGPA(累積)が2.5点以上の者。
  3. 日本語教員養成課程・主コース(日本学・国際コミュニケーション専攻以外の学生の場合は日本語教員養成課程副コースでも可)修了(見込み)の者。または、日本語教育能力検定試験に合格している者。
  4. 修士課程修了後の進路に明確なプランのある者。
  5. 所属学部長が推薦する者。
  6. 日本語能力試験N1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上の者。ただし、非漢字圏出身者の場合、日本語能力試験N2合格で、且つ、GPA(累積)3.0以上であれば、N1不合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点未満でも可とする。
- ※6 「学内特別推薦C(2年修了コース/筆記・面接型)入試」は、以下の1～4のすべてを満たすことが出願条件。日本語を第1言語としない者の場合、これに加えて5も満たすこと。
1. 麗澤大学外国語学部及び国際学部国際学科の4年次生で、本専攻を第一志望とし、II期に出願できる者。
  2. 出願時の成績について、GPA(累積)が3.0点以上の者。
  3. 修士課程修了後の進路に明確なプランのある者。
  4. 所属学部長が推薦する者。
  5. 日本語能力試験N1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上の者。ただし、非漢字圏出身者の場合、日本語能力試験N2合格でも可とする。
- ※7 「卒業生特別推薦入試」は、次の1～4の条件を全て満たすことが出願条件。日本語を第1言語としない者の場合、これに加えて5も満たすこと。
1. 麗澤大学卒業生であり、本専攻を第一志望とする者。
  2. 日本語教員養成課程・主コース(日本学・国際コミュニケーション専攻以外の学生の場合は日本語教員養成課程副コースでも可)修了の者。または、日本語教育能力検定試験に合格している者。
  3. 国内外の教育機関において実質6ヶ月以上の日本語教育歴を有する者。
  4. 在学時の指導教員(卒業研究担当教員)、所属学部及び専攻の長、その他本学専任教員が推薦する者。
  5. 日本語能力試験N1合格、またはJ.TEST 実用日本語検定A-Cレベル試験700点以上の者。
- ※8 「学外特別推薦入試」は、公的な奨学金等を得て研究を行う者で、特別研究担当教員より受入れの承諾を得られる者を対象とする。

### 3. 試験日程

入試区分	出願期間 (締切日消印有効)	試験日	合格発表	入学手続期限 (消印有効)	入学辞退期限 (消印有効)
I 期	2026年9月2日(水) ～9月11日(金)	10月3日(土)	10月13日(火)	10月23日(金)	3月31日(水)
II 期	2027年1月12日(火) ～1月22日(金)	2月20日(土)	2月26日(金)	3月5日(金)	

入学資格審査申請期限：Ⅰ期／2026年8月18日(火)必着、Ⅱ期／2026年12月4日(金)必着

#### 4. 選抜方法

- (1) 学内特別推薦A（日本語教育プロフェッショナルコース）及び、学内特別推薦C（2年修了コース面接型）

※配点は非公表

選抜方法	備 考	時 間	配 点	総合点
筆記試験	日本語教育学に関する専門知識を問うもの。 日本語で記述する。	60分	100点	200点
面接	主として出願書類に関連した内容について、 日本語で行う。		100点	
書類審査	研究計画書、成績証明書等。			

- (2) 学内特別推薦B（2年修了コース筆記・面接型）、卒業生特別推薦、学外特別推薦、社会人入試

※配点は非公表

選抜方法	備 考	時 間	配 点	総合点
面接	主として出願書類に関連した内容について、 日本語で行う。		100点	100点
書類審査	研究計画書、成績証明書、推薦書等。			

- (3) 一般

※配点は非公表

選抜方法	備 考	時 間	配 点	総合点
筆記試験	・語学能力（英語／日本語）を問うもの。日本語を第1言語とする者は英語問題、日本語を第1言語としない者は英語または日本語の問題のどちらかを選択して解答。 ・日本語教育学に関する専門知識を問うもの。日本語で記述する。	60分	100点	200点
口述試験	主として研究計画書および筆記試験に関連した内容について、日本語で行う。		100点	
書類審査	研究計画書、成績証明書等。			

#### 5. 長期履修制度について

「一般入試」、「卒業生特別推薦入試」及び「社会人入試」の合格者は利用することができる。

長期履修制度とは、修士課程が実施する上記の入試において合格し入学を許可された者を対象とし、正規雇用（自営業を含む）・非正規雇用において、当該収入が生計維持の収入である場合や、育児及び親族の介護を行う必要がある場合に、在学期間をあらかじめ3年又は4年に延長することができる制度で、出願時に申請する。

#### 6. 研究生制度について

特定の専門事項についての研究支援として設ける制度であり、正規生入試出願時に併願（入学志願票の研究生併願欄に希望の有無をチェック）することができる。正規生入試で不合格の場合にのみ研究生としての受入審査（検定料は免除）を行い、若干名を合格とする。なお、研究生単願の入試は実施しない。

7. 入学金免除制度

「卒業生特別推薦」に合格した者のうち、毎年1名の入学金を免除する。

8. その他

不正行為等が発覚し、学内推薦にふさわしくないと本研究科が判断した場合、入試の合格を取り消すことがある。

以 上